

【Advanced I】

筆記試験 <理論> 例題集 ③

(90分)

I. 次の楽譜を見て、各問に答えなさい。

1. ①～⑩にあてはまるコード・ネームを書きなさい。

① _____ ② _____ ③ _____ ④ _____

⑤ _____ ⑥ _____ ⑦ _____ ⑧ _____

2. A～Eのコードの度数と機能を書きなさい。

(注) 機能の表示は以下の略号で答えなさい。

Tonic → T Dominant → D Subdominant → S
 Subdominant Minor → Sm Secondary Dominant → Sec.D
 Sub Secondary Dominant → Sub Sec.D

	度数	機能
A		
B		
C		
D		
E		

3. (ア) ~ (エ) のコードに対する適切なアベイラブル・ノート・スケール名を書きなさい (開始音名も記入すること)。

(ア) _____ (イ) _____
 (ウ) _____ (エ) _____

●コード判別、コードの度数と機能、アベイラブル・ノート・スケールに関する問題です。Advanced I では、ノン・ダイアトニック・コード (代理コードやセカンダリー・ドミナント) を含めた各種のコードの機能を、曲のキーとコードの構成音から分析することが求められます。また、ダイアトニック・コードのアベイラブル・ノート・スケールについては、後述の問題Vでも問われるので、『セオリー・オブ・ポピュラー&ジャズ 3』第10章 (35ページ~) を参考に、アベイラブル・ノート・スケールの名称をよく知っておく必要があります。

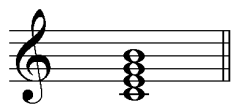
(正解) 1. ① F7 ② Am7(b5) ③ D7 ④ Gm7 ⑤ Fm7 ⑥ E^b maj7 ⑦ Dm7 ⑧ Cm7
 2.

	度数	機能
A	V7	D
B	VI m7	T
C	V7/IV	Sec.D
D	IV m7	Sm
E	II m7	S

3. (ア) A ロクリアン・スケール (イ) E^b リディアス・スケール
 (ウ) D フリジアン・スケール (エ) F ミクソリディアス・スケール

II. 例にならって、次のコード・ネームの和音の基本形を書きなさい。

(例) Cmaj7

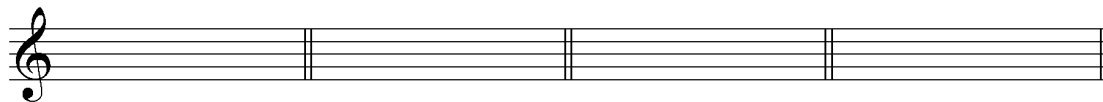


B^bm7

F[#]7

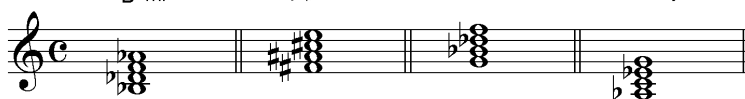
Gm7(b5)

A^bmaj7



●コードの構成音を問う問題です。Basic I と同様、コード・ネームからの音符を組み立て方を理解しておきましょう。

(正解)



Ⅲ. 下の表は、ダイアトニック・コードの機能とその代理和音について書かれたものです。該当するコード・ネームを記して空欄をうめなさい。

	トニック	トニック代理	サブ・ドミナント (サブ・ドミナント・ マイナー)	サブ・ドミナント (マイナー)代理	ドミナント
(例)	Cmaj7	Em7 Am7	Fmaj7	Dm7	G7
			Gmaj7		
			Cm7		
	A ^b maj7				

●ダイアトニック・コードの機能のまとめです。メジャーおよびマイナー・キーについて、それぞれのダイアトニック・コードの機能を整理しておきましょう。

(正解)

	トニック	トニック代理	サブ・ドミナント (サブ・ドミナント・ マイナー)	サブ・ドミナント (マイナー)代理	ドミナント
	Dmaj7	F [#] m7 Bm7	Gmaj7	Em7	A7
	Gm7	B ^b maj7 (E ^b maj7)	Cm7	Am7 ^(b5) F7 (E ^b maj7)	D7
	A ^b maj7	Cm7 Fm7	D ^b maj7	B ^b m7	E ^b 7

IV. 例にならって、下記のコード・パターンにふさわしいコード・ネームを記入し、その説明として適切なものを□内から選んで番号で答えなさい。

(例) Key : C major

~	IVmaj7 (Fmaj7)	V7 (G7)	I maj7 (Cmaj7)	説明: □ 1
---	---------------------	--------------	---------------------	---------

(1) Key : A major

~	III m7 ()	II m7 ^(b5) ()	I maj7 ()	説明: □
---	---------------	------------------------------	---------------	-------

(2) Key : E^b major

~	II m7 ()	^b II 7 ()	I maj7 ()	説明: □
---	--------------	--------------------------	---------------	-------

(3) Key : E minor

~	I m7 ()	IV m7 ()	I m7 ()	説明: □
---	-------------	--------------	-------------	-------

- (説明)
1. 主要和音によるサブドミナントードミナント・ケーデンス
 2. トゥー・ファイブによるサブドミナントードミナント・ケーデンス
 3. 代理コードを用いたトゥー・ファイブによるサブドミナントードミナント・ケーデンス
 4. 主要和音によるサブドミナント・ケーデンス
 5. 主要和音によるサブドミナント・マイナー・ケーデンス
 6. 代理コードを用いたサブドミナント・マイナー・ケーデンス
 7. ディセプティブ・ケーデンス (偽終止)

●コード進行(ケーデンス)に関する理解を問う問題です。まず、それぞれのキーにおける各度数のコード・ネームを導き出すこと、さらにそれらの機能を分析することが必要です。各コードの機能がわかれば、その繋がりからケーデンスの種類を割り出すことができます。

(正解) (1)

~	III m7 (C [#] m7)	II m7 ^(b5) (Bm7 ^(b5))	I maj7 (Amaj7)	説明: □ 6
---	---------------------------------	--	---------------------	---------

(2)

~	II m7 (Fm7)	^b II 7 (E7)	I maj7 (E ^b maj7)	説明: □ 3
---	------------------	-----------------------------	-----------------------------------	---------

(3)

~	I m7 (Em7)	IV m7 (Am7)	I m7 (Em7)	説明: □ 5
---	-----------------	------------------	-----------------	---------

V. 例にならって、①～⑥のコードとメロディーに対応した、適切なアベイラブル・ノート・スケールとテンション・ノートの音名と度数を書きなさい。また、アボイド・ノートがある場合はアボイド・ノートの音名と度数も書きなさい。

(アボイド・ノートがない場合はNo Avoidと書きなさい。)

(例) Amaj7 ① Dmaj7 ② C#m7 ③ Bm7 ④ E7

⑤ F#m7 Bm7 E7 Amaj7

●楽譜から、ダイアトニック・コードのアベイラブル・ノート・スケールを導き出して五線に記載し、さらにテンションとアボイドを答える問題です。譜面におけるそれぞれのコードに対するアベイラブル・ノート・スケールの名称と構成音、さらにそれに含まれるテンションおよびアボイド・ノートの度数と音名を正確に理解していることが必要です。ドミナント7thコードについては複数のスケールが考えられますが、メロディーに含まれる音（テンション・ノートとなり得る音）によって適切なものを選びます。（なお、⑥のようにメロディーから複数のスケールの候補があり得る場合は、どちらを選んでも正解です。）これらについては、『セオリー・オブ・ポピュラー&ジャズ 3』第10章（35～55ページ）を熟読して、よく覚えておきましょう。

(正解)

(例) スケール：A イオニアン・スケール

Tension = B (9th)

Avoid = D (4th)

① スケール：D リディアン・スケール

Tension = E (9th) G#(#11th)

Avoid = No Avoid

② スケール：C# フリジアン・スケール

Tension = F# (11th)

Avoid = D (b 2nd) A (b 6th)

③ スケール：B ドリアン・スケール

Tension = C#(9th) E (11th)

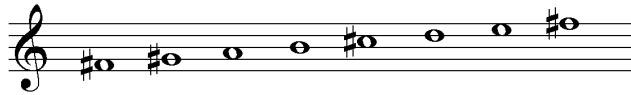
Avoid = G#(6th)

④ スケール：E ミクソリディアン・スケール

Tension = F#(9th) C#(13th)

Avoid = A (4th)

⑤ スケール: F# エオリアン・スケール



Tension = G# (9th) B (11th)

Avoid = D (b 6th)

⑥ スケール: E ハーモニックマイナーP5↓スケール(※またはE オルタード・スケール)



Tension = F (b 9th) C (b 13th)

(※G (#9th) A#(#11th))

Avoid = A (4th) (※No Avoid)

VI. 次の曲に対し4 Way closeでVoicingをおこないなさい。また、ベース音も書きなさい。

Fmaj7 D7 Gm7 C7 Fmaj7 Am7 Dm7

Bbmaj7 A7 Dm7 Gm7 C7

●メロディーに対するクローズ・ボイシングです。クローズ・ボイシングの基本は、メロディーの音をトップとして、その下にコード・トーンを順に配置していきます。メロディーがコード・トーンでない場合は、メロディーのすぐ下のコード・トーンを省いて同様に残りの音を配置します。特に、メロディーが9thや#9thの場合(5小節目など)はルート省略することに注意しましょう。この手法について詳しくは『ピアノ・パフォーマンス 3』STEP 3 (22ページ〜)に掲載されているので、日頃から譜面上でトレーニングしておくといいでしょう。

(解答例)

Fmaj7 D7 Gm7 C7 Fmaj7 Am7 Dm7

Bbmaj7 A7 Dm7 Gm7 C7

VII. 次の曲に対し、4声～5声でOpen Voicingをおこないなさい。

Em7 F#m7 Gmaj7 A7 Dmaj7 Bm7

Em7 F#7 Bm7 E7 Em7 A7 D

- メロディーに対するオープン・ボイスイングです。オープン・ボイスイングにはいくつかの方法がありますが、
 - ・最低音（ルート）の上に5thを置き、メロディーとの間に3rd、7thを埋める（シンプル・オープン・ハーモニー：『ピアノ・パフォーマンス 3』STEP 5 46ページ～を参照）
 - ・メロディーが3rdか7thであれば、ルートとの間に残りの3rdか7thと5thを入れる
 - ・クローズ・ボイスイングをした上で、2番目もしくは3番目のコード・トーンをオクターブ下げる（Drop2、Drop3）
 という手法を、音域やラインの流れを考慮して組み合わせるのがセオリーです。なお、5th音は省略可能ですが3rd、7thは原則として省略しないことや、ロー・インターバル・リミット（低音域での音程関係）にも注意しましょう。

(解答例)

Em7 F#m7 Gmaj7 A7 Dmaj7 Bm7

Em7 F#7 Bm7 E7 Em7 A7 D